



平成31年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査

津市調査結果

津市教育委員会

令和元年9月

目 次

1	平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の概要	1
2	津市の結果について	
(1)	教科に関する調査の結果	2
(2)	津市の平均正答率と全国の平均正答率の推移	3
3	児童生徒質問紙からみる子どもたちの現状	4
4	各教科における調査結果について	
●	小学校国語の調査結果	8
●	小学校算数の調査結果	10
●	中学校国語の調査結果	12
●	中学校数学の調査結果	14
●	中学校英語の調査結果	16
5	児童生徒質問紙調査結果について	18
6	学校質問紙調査結果について	23
7	今後の改善方策について	26

全国学力・学習状況調査によって、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、教育活動の質を高めるために有効なデータが得られるとともに、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒を育てるために、特に力を入れるべき点を明確にすることができます。

こうした考えから、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査における津市立小・中・義務教育学校の児童生徒の学力や学習状況の概要を、公表するとともに、指導改善につなげるために、分析結果及び今後の改善方策などを掲載します。

1 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の概要

◆ 調査の目的

- 1 津市教育委員会及び学校が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。
- 2 市内のすべての学校が、各児童生徒の学力や学習状況をより客観的に把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てます。

◆ 実施日

平成31年4月18日(木)

◆ 調査対象

- 1 小学校第6学年・義務教育学校前期課程(津市：約2,296人)
- 2 中学校第3学年・義務教育学校後期課程(津市：約2,137人)
特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科(国語、算数・数学、英語)について、該当学年の指導内容で学習している児童生徒は、原則として調査の対象となります。

◆ 調査内容

- 1 教科に関する調査
小学校：国語、算数 中学校：国語、数学、英語
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等と知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容を一体的に問う問題が出題されました。
※ 英語の問題については、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の記述式問題の他に、「話すこと」の口述式問題が出題されました。
- 2 質問紙調査
＜児童生徒に対する質問紙調査＞
調査する学年の児童生徒を対象にした学習意欲、学習方法、学習環境及び生活の諸側面等に関する質問紙調査(以下「児童生徒質問紙調査」)
＜学校に対する質問紙調査＞
学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査(以下「学校質問紙調査」)

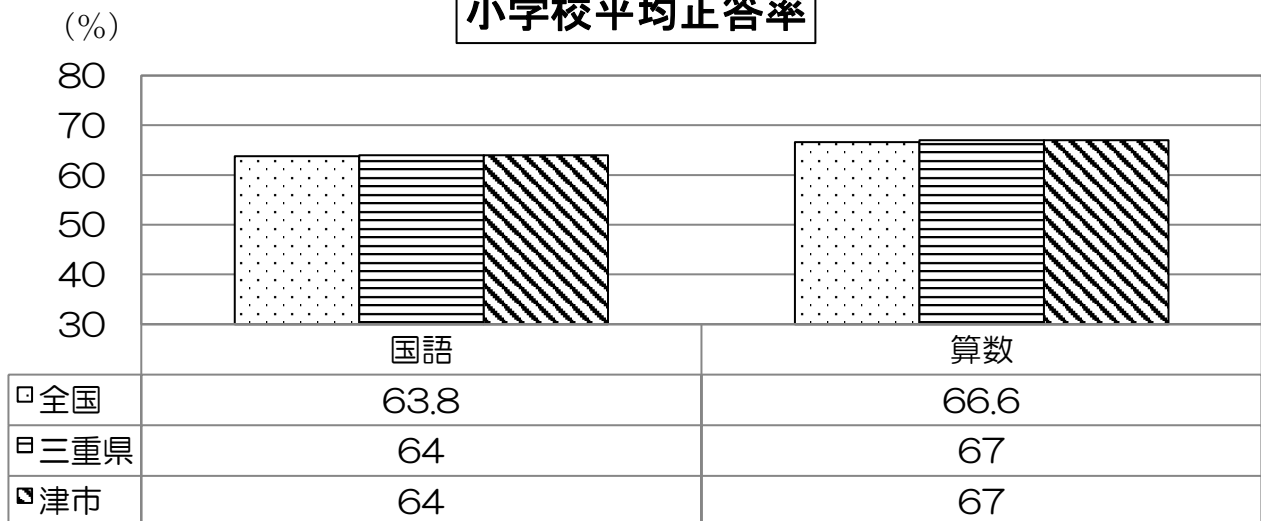
◆ 留意点

調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮します。

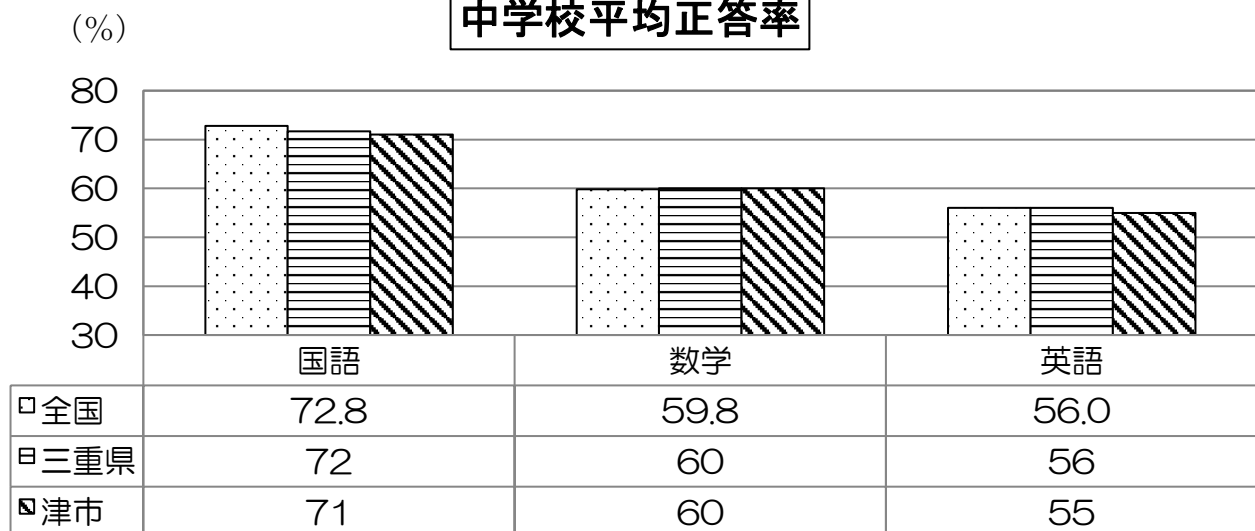
2 津市の結果について

(1) 教科に関する調査の結果

小学校平均正答率



中学校平均正答率



※「話すこと」調査は除く

※ 県・市の平均正答率については、小数点以下四捨五入

(2) 津市の平均正答率と全国の平均正答率の推移

平均正答率の5年間の推移です。

小学校		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度 (令和元年度)	
		本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	A	70.0	70.0	72.2	72.9	73	74.8	71	70.7	64	63.8
	B	66.7	65.4	58.7	57.8	57	57.5	54	54.7		
算数	A	75.0	75.2	77.2	77.6	77	78.6	62	63.5	67	66.6
	B	46.0	45.0	47.1	47.2	45	45.9	50	51.5		
理科		59.7	60.8					58	60.3		

中学校		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度 (令和元年度)	
		本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	A	75.8	75.8	75.6	75.6	77	77.4	75	76.1	71	72.8
	B	65.4	65.8	65.1	66.5	71	72.2	59	61.2		
数学	A	64.5	64.4	61.9	62.2	66	64.6	66	66.1	60	59.8
	B	41.3	41.6	44.1	44.1	48	48.1	46	46.9		
理科		53.2	53.0					65	66.1		
英語										55	56.0

※平成29年度から平均正答率について文部科学省からの結果提供が整数値となりました。
 ※平成31年度（令和元年度）はA問題（知識）とB問題（活用）が一体的に出題されました。

3 児童生徒質問紙からみる児童生徒の現状

児童生徒が今回の調査対象の教科について、どのような意識をもって調査を受けたのかを児童生徒質問紙から見ていきます。

国語に関する質問

国語に関しては、小中学校とも「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に肯定的に答えている児童生徒の割合は全国平均を上回っていますが、「国語の勉強は好きですか」という質問に対しては、肯定的に答えている児童生徒の割合は全国平均を下回っており、肯定的な数値も低くなっています。

このことから、子どもたちは国語の学習の必要性や重要性は感じているものの、あまり意欲的に学習に取り組んでいない傾向があると考えられます。

【小：37 中：40】国語の勉強は好きですか。

学校種	『当てはまる』『どちらかという当てはまる』	全国差
小学校	62.9	▲1.3
中学校	59.5	▲2.2

【小：38 中：41】国語の勉強は大切だと思いますか。

学校種	『当てはまる』『どちらかという当てはまる』	全国差
小学校	93.5	0.5
中学校	91.5	0.5

【小：39 中：42】国語の授業の内容はよく分かりますか。

学校種	『当てはまる』『どちらかという当てはまる』	全国差
小学校	87.3	2.4
中学校	78.9	1.3

【小：40 中：43】国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

学校種	『当てはまる』『どちらかという当てはまる』	全国差
小学校	91.4	0.2
中学校	88.7	0.7

(%)

算数・数学に関する質問

算数・数学に関しては、国語と同様の質問について、小中学校とも肯定的に答えている児童生徒の割合が全て全国平均を上回っています。

これらの回答と算数・数学の平均正答率の相関関係を見てみると、算数・数学では、「算数・数学は好き」、「算数・数学の勉強は大切」と肯定的に回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られました。

【小：46 中：49】算数・数学の勉強は好きですか。

学校種	『当てはまる』『どちらかという当てはまる』	全国差
小学校	70.1	1.5
中学校	58.5	0.6

【小：47 中：50】算数・数学の勉強は大切だと思いますか。

学校種	『当てはまる』『どちらかという当てはまる』	全国差
小学校	94.2	0.5
中学校	85.6	1.4

【小：48 中：51】算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

学校種	『当てはまる』『どちらかという当てはまる』	全国差
小学校	85.8	2.3
中学校	77.4	3.5

【小：49 中：52】算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

学校種	『当てはまる』『どちらかという当てはまる』	全国差
小学校	92.6	0.1
中学校	76.7	0.5

(%)

英語に関する質問

英語に関しては、「英語の勉強が好きですか」という質問に肯定的に答えている生徒の割合が全国平均より下回っています。教科の大切さや有用性を感じ、授業がよく分かるとしながらも、英語の勉強が好きな生徒が少ないことから、英語の学習の楽しさが感じられるような授業改善に取り組む必要があることが分かります。

【54】英語の勉強は好きですか。

	『当てはまる』『どちらかという当てはまる』	全国差
中学校	53.8	▲2.2

【55】英語の勉強は大切だと思いますか。

	『当てはまる』『どちらかという当てはまる』	全国差
中学校	85.7	0.3

【56】英語の授業はよく分かりますか。

	『当てはまる』『どちらかという当てはまる』	全国差
中学校	68.0	2.0

【57】英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

	『当てはまる』『どちらかという当てはまる』	全国差
中学校	85.7	0.3

(%)

＜英語の調査について＞

多様化する社会では、国際共通語である英語を使ってコミュニケーションを行うことが必要になります。生徒の英語力を着実に向上させるために、どのような力が身に付いていて、必要とされる力をどのように身に付けていくかを検証するため、平成31年度（令和元年度）より中学校英語の調査が取り入れられました。

領域	出題の概要	問題形式	時間
聞くこと	・英語を聞いて情報の詳細を理解することができる	筆記（選択・記述）	合わせて 45分
読むこと	・英語を読んで情報の詳細を理解することができる	筆記（選択・記述）	
書くこと	・英語の基本的な語や文法事項等を理解して、正しく文を書くことができる	筆記（選択・短答・記述）	
話すこと	・英語の基本的な音声の特徴を理解している ・身近な英語の質問に正しく応答することができる	パソコンによる 音声入力（口述）	5分

粘り強さに関する質問

国語、算数・数学において、条件に合わせて作文したり、言葉や数、式を使って説明したりする記述式の問題があり、全国的に平均正答率が低い傾向にあります。これらの問題に対し「全ての書く問題で最後まで書こうと努力した」と回答した児童生徒は全国よりも上回り、児童生徒が粘り強く解答したことが分かります。

また、今回の調査では、全ての教科で小中学校とも平均無解答率が全国平均を下回りました。平均無解答率が低いほど、子どもがあきらめずに粘り強く取り組んだことを示しています。この子どもの姿は、新学習指導要領で子どもたちにつけたい力の三つの柱の一つである「学びに向かう力」の基礎になると考えられます。子どもの姿から、「できていること」をしっかりと評価し、「頑張ったこと」を認めることによって、一人一人の自己肯定感を高めることが大切です。

【小：45 中：48】今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。

（『全ての書く問題で最後まで書こうと努力した』と回答した児童・生徒の割合）

学校種	津市	全国	全国差
小学校	83.0	80.4	2.6
中学校	81.9	79.8	2.1

【小：56 中：53】今回の算数・数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、どのように解答しましたか。

（『全ての書く問題で最後まで書こうと努力した』と回答した児童・生徒の割合）

学校種	津市	全国	全国差
小学校	82.9	80.7	2.2
中学校	63.9	60.8	3.1

(%)

3 各教科における調査結果について

各教科で本市の児童生徒がどのような力が身に付き、どのような力が身に付いていないのかについて、全国の実平均正答率の差や過去の本市の傾向から見ていきます。

● 小学校国語の調査結果

国語の実平均正答率について

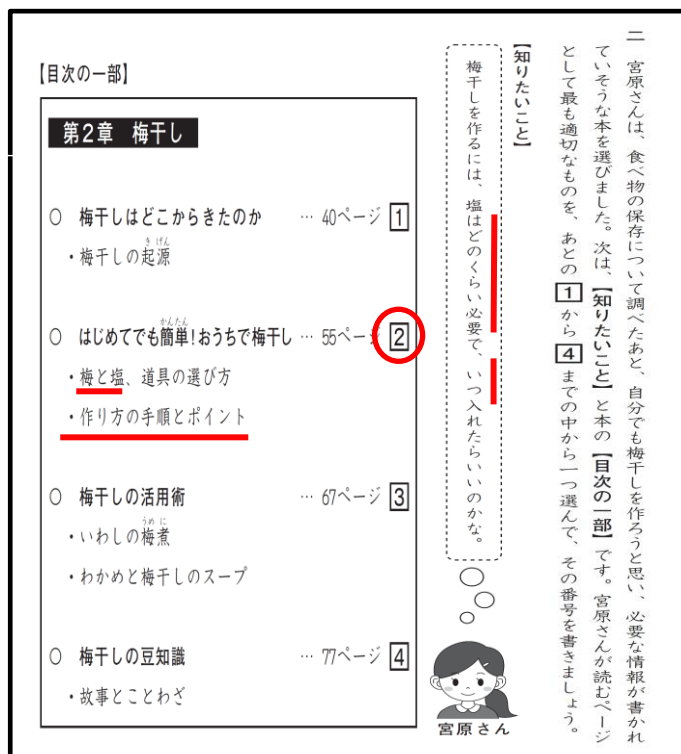
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			津市教育委員会	三重県（公立）	全国（公立）	全国との差
全体		14	64	64	63.8	0.2
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	73.2	73.0	72.3	0.9
	書くこと	3	54.4	54.8	54.5	▲ 0.1
	読むこと	3	82.8	82.8	81.7	1.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	52.8	53.4	53.5	▲ 0.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	59.0	59.1	57.6	1.4
	話す・聞く能力	3	73.2	73.0	72.3	0.9
	書く能力	3	54.4	54.8	54.5	▲ 0.1
	読む能力	3	82.8	82.8	81.7	1.1
	言語についての知識・理解・技能	5	52.8	53.4	53.5	▲ 0.7
問題形式	選択式	7	75.4	75.4	75.1	0.3
	短答式	4	47.7	48.5	48.7	▲ 1.0
	記述式	3	59.0	59.1	57.6	1.4

領域ごとの調査結果については、「話すこと・聞くこと」が73.2%、「書くこと」が54.4%、「読むこと」が82.8%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が52.8%でした。全国の実平均正答率と比較すると、「読むこと」の領域は全国平均よりも1.1ポイント高くなりましたが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、昨年度と同様全国平均より下回っている状況にあります。

結果から分かること

「読むこと」の領域では、目的に応じて、本文や文章全体を概観して効果的に読むことができるかをみる問題が出題されました。この問題の正答率は、全国よりも2.2ポイント高い90.7%でした。

「梅干しを作るには、塩はどのくらい必要で、いつ入れたらいいのか」を知るために、資料(【目次の一部】)の「梅と塩、道具の選び方」「作り方の手順とポイント」の言葉に着目して解答することができていました。本文の内容を捉え、資料を活用し、必要な内容を文章全体から大まかにつかんで読む力がついていました。



—「インタビューの様子」のアで、岸さんは、自分の理解が正しいかどうかを確認しようと思いい、質問をしています。その質問として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【インタビューの様子】一部抜粋

大谷さん 私店の量について言えば、全て一点物だということです。私は、機械を使わずに、細部までくふうして一枚ずつ手作業で仕上げています。ですから、完成した量は同じように見えても、それぞれに個性があるのです。そこが私にとっての一番のやりよいですね。

岸さん そうなのですね。それはつまり、

ア

大谷さん そうです。部屋の大きさに合わせたり、お客様の希望や要望に応えたりするのは、職人としての腕の見せどころですからね。

1 十八歳から五十年間も、畳職人という仕事を続けることができたということでしょうか。

2 機械を使って一度にたくさん作るの、より多くの人が使うことができるということでしょうか。

3 最近作られた量の中で、特にくふうして仕上げたものにはどのようなものがあるのでしょうか。

4 細部までいいいに手作業で作るので、一枚も同じものはないということでしょうか。

また、「話すこと・聞くこと」の領域である、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすることができるかをみる問題の正答率は、全国よりも1.5ポイント高い82.8%でした。

地域で活躍する人を紹介するために、畳職人にインタビューするという問題場面で、相手の話を「つまり」という接続詞を用いて自分の言葉に言い換えて確認し、話し手の意図を正しく読み取ることによって一定の定着がみられました。

平成28年度に出題されたスーパーマーケットの店長へインタビューするという同様の趣旨の問題では平均正答率が51.2%であったことから、話し手の意図を捉えて聞くことについての指導の成果が表れています。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域である、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる問題が出題されました。この問題の正答率は、全国よりも5.1ポイント低い36.8%でした。

ア「調査のたいしょう」（対象）の問題では、「しょう」の誤答が多くみられました。『対照』『対称』『大正』『大賞』など

ウ「かんしんをもって」（関心）の問題では、「かん」の誤答が多くみられました。『感心』

これらの問題は同音異義語に注意して、文脈の中で漢字を適切に使うことに課題があることがわかります。

同音異義語を理解するには、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣をつけることが大切になってきます。そのためには、文脈に沿った正しい使い方ができるように国語辞典で調べ、意味理解をする必要があると考えられます。

そこで、地いきの人三十人を調査のたいしょうとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達にいかざらず多くの友達に伝え、公衆電話についてウかんしんをもってもらいたいと思います。

●小学校算数の調査結果

算数の平均正答率について

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			津市教育委員会	三重県（公立）	全国（公立）	全国との差
全体		14	67	67	66.6	0.4
学習指導要領の領域	数と計算	7	64.2	64.3	63.2	1.0
	量と測定	3	51.2	51.3	52.9	▲ 1.7
	図形	2	76.0	76.2	76.7	▲ 0.7
	数量関係	7	69.0	69.1	68.3	0.7
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0				0.0
	数学的な考え方	8	61.5	61.7	62.2	▲ 0.7
	数量や図形についての技能	4	76.1	75.9	73.6	2.5
	数量や図形についての知識・理解	2	67.7	68.4	70.1	▲ 2.4
問題形式	選択式	5	74.3	74.8	75.7	▲ 1.4
	短答式	5	75.2	75.2	72.8	2.4
	記述式	4	46.0	45.9	47.4	▲ 1.4

領域ごとの調査結果については、「数と計算」が64.2%、「量と測定」が51.2%、「図形」が76.0%、「数量関係」が69.0%の正答率でした。

全国の平均正答率と比較すると、「数と計算」「数量関係」については、全国平均を上回り、「量と測定」「図形」については、全国平均を下回っている状況にあります。

結果から分かること

洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する問題の正答率は、全国よりも6.2ポイント高い66.3%でした。加法と乗法の混合した整数と小数の計算について、計算の順序を理解している児童の割合は全国より高いことが分かります。

また、2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く問題(図1)の正答率は、全国よりも4.1ポイント高い82.7%でした。

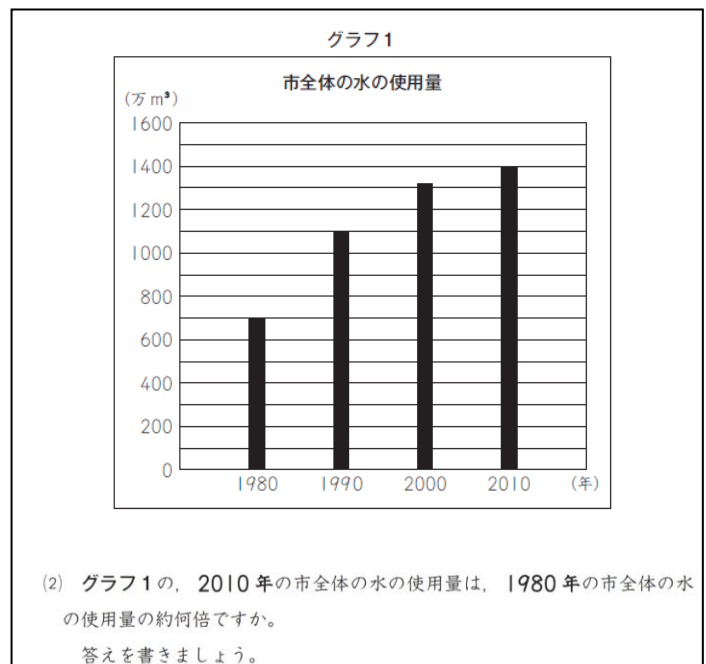


図1

このことから、棒グラフから適切な情報を読み取り、その情報を基に求めるための除法の式を立式し確実に計算することに一定の定着がみられます。

減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く問題の正答率は、全国よりも 4.5 ポイント低い 39.4%で、示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題があります。この問題では、3つの条件すべてを満たすものが正答となりますが、児童の解答の様子を見ると3つの条件のうち2つもしくは1つのみを書いている児童が、全国の児童よりも 5.2 ポイント高い 38.8%でした。このことから、式の中にある数の意味や演算の意味を図形と関連づけて説明する力がついていないことが分かります。

また、 $1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ問題（図2）の正答率は、全国より 4.5 ポイント低い 42.5%でした。半数以上の児童が「 $1800 \div 6$ 」で求められる「300円」が何m分の代金を表しているのか理解できていないと考えられます。

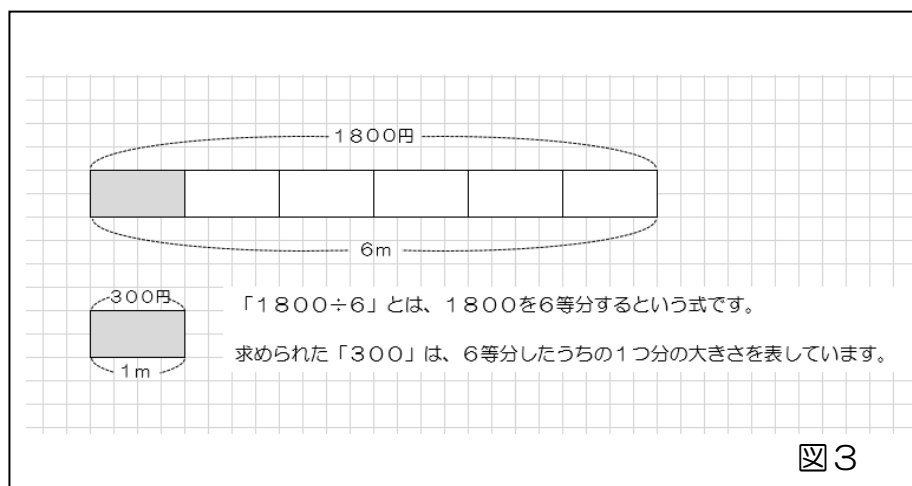
$1800 \div 6$ は、何 m 分の代金を求めている式といえますか。

下の **あ** から **え** までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

- あ** 0.6 m 分の代金
- い** 1 m 分の代金
- う** 6 m 分の代金
- え** 10 m 分の代金

図2

ここでは、与えられた式だけで考えるのではなく、図3のような図を用いて、「 $1800 \div 6$ 」が何m分の代金を表しているかを図示する力が大切です。算数科では、目的に応じて図、表、グラフ等を活用しつつ、既習の知識及び技能等を関連付けながら、統合的・発展的に考える力が求められます。



●中学校国語の調査結果

国語の平均正答率について

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			津市教育委員会	三重県(公立)	全国(公立)	全国との差
全体		10	71	72	72.8	▲1.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	69.0	69.1	70.2	▲1.2
	書くこと	2	81.4	81.7	82.6	▲1.2
	読むこと	3	71.0	71.6	72.2	▲1.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	65.4	65.6	67.7	▲2.3
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	76.2	76.9	76.5	▲0.3
	話す・聞く能力	3	69.0	69.1	70.2	▲1.2
	書く能力	2	81.4	81.7	82.6	▲1.2
	読む能力	3	71.0	71.6	72.2	▲1.2
	言語についての知識・理解・技能	2	65.4	65.6	67.7	▲2.3
問題形式	選択式	6	72.0	72.1	73.6	▲1.6
	短答式	1	53.3	53.4	56.8	▲3.5
	記述式	3	76.2	76.9	76.5	▲0.3

領域ごとの調査結果については、「話すこと・聞くこと」が69.0%、「書くこと」が81.4%、「読むこと」が71.0%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が65.4%でした。

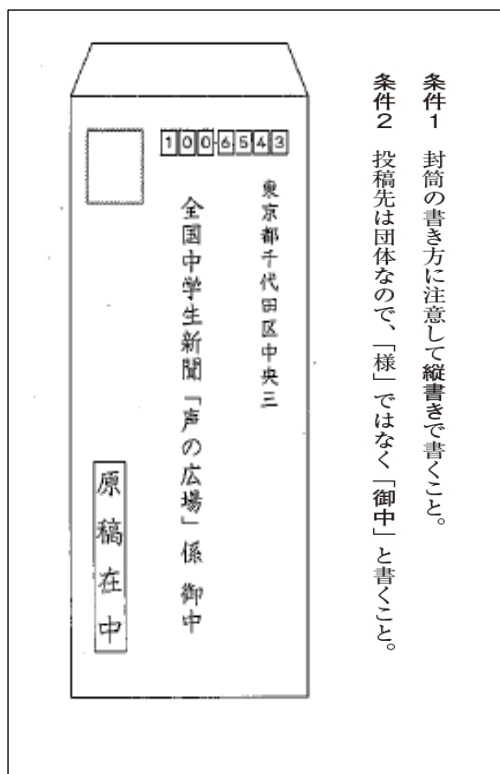
全国の平均正答率と比較すると、すべての領域において下回っている状況にあります。

結果から分かること

領域ごとの調査結果について昨年度と比較してみると、すべての領域において、全国平均との差が1ポイント程度縮まりました。

記述式問題については、今年度は3題が出題され、内容は、短歌を読んで感じたことや考えたことを書くもの、話し合いの流れに沿って自分の考えを書くもの、意見文の中に具体例を書き加えるものでした。平均正答率は、ほぼ全国平均と同じでしたが、無解答率についてみると前回よりも改善がみられ、生徒が粘り強く取り組んだ姿が伺えます。

また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域においては、全国平均正答率より2.3ポイント下回っています。



条件1 封筒の書き方に注意して縦書きで書くこと。
条件2 投稿先は団体なので、「様」ではなく「御中」と書くこと。

今年度は、封筒の書き方についての理解をみる問題が出題されました。この問題の正答率は全国よりも3.5ポイント低い53.3%で、生徒の解答には、「投稿先の名前」と「住所」の位置を逆に書いたり、敬称の「御中」を誤った位置に付けて書いたりしたものがみられました。

また、文字の配列や大きさなどに注意して書くことにも課題あり、手紙の基本的な形式を理解していないことが分かります。

封筒やはがきの書き方は、社会生活に役立つ書写の能力であるため身に付けておく必要があります。そして、相手の名前を他の文字より大きく書くなど、手紙の形式に込められた相手への敬意について考えていくことも大切です。

「読むこと」の領域において、文章の校正や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことができるかをみる問題の正答率は全国よりも2.7ポイント低い61.2%でした。

生徒の解答からは、 で囲まれた部分に「日本の文化」が「複数」示されていることや、「外国語の辞書に載っている言葉」が示されていることは捉えているものの、書き手の目的を理解できていないことが分かりました。

また、「本シリーズでは、・・・紹介していきます。」などの表現の仕方が、掲載の見通しを示したものであると気付いていないことも分かりました。

これらのことから、文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして考える力に課題があります。書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりしていくことが求められます。

情報を読む（新聞）

〈シリーズ〉再発見！ 日本の文化

日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。例えば、「弁当 (bento)」、「漫画 (manga)」、「俳句 (haiku)」、「盆栽 (bonsai)」、「折り紙 (origami)」は、英語やフランス語などの辞書に載っており、海外で受け入れられていることが分かります。本シリーズでは、この五つの日本の文化を取り上げ、五回にわたって、その魅力を紹介していきます。第一回は、弁当です。

1 2 3 4 5

「弁当」

一 「〈シリーズ〉再発見！ 日本の文化」にある、「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。・・・第一回は、弁当です。」という文章（ ）について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 日本の文化の例を複数示すことで、読者が様々な国の文化と比較しながらこの紙面を読むことができるようにしている。
- 2 このシリーズで取り上げる内容を示すことで、読者が今後の掲載の見通しをもつことができるようにしている。
- 3 「海外に広がる弁当の魅力」の記事の要約を示すことで、読者が時間をかけずに新聞を読むことができるようにしている。
- 4 外国語の辞書に載っている言葉を示すことで、読者が海外と日本の言葉の意味の違いに気付くことができるようにしている。

●中学校数学の調査結果

数学の平均正答率について

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			全国との差
			津市教育委員会	三重県（公立）	全国（公立）	
全体		16	60	60	59.8	0.2
学習指導要領の領域	数と式	5	62.2	62.8	63.8	▲1.6
	図形	4	72.0	73.2	72.4	▲0.4
	関数	3	43.7	42.9	40.8	2.9
	資料の活用	4	57.8	57.1	56.3	1.5
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0				0.0
	数学的な見方や考え方	8	51.7	51.4	51.0	0.7
	数学的な技能	3	64.8	65.0	63.9	0.9
	数量や図形などについての知識・理解	5	70.7	71.5	71.3	▲0.6
問題形式	選択式	5	60.1	59.9	60.3	▲0.2
	短答式	7	66.8	67.3	66.6	0.2
	記述式	4	48.3	48.4	47.1	1.2

領域ごとの調査結果については、「数と式」が62.2%、「図形」が72.0%、「関数」が43.7%、「資料の活用」が57.8%でした。

全国の平均正答率と比較すると、「関数」と「資料の活用」については全国平均を上回り、「数と式」と「図形」については、全国平均を下回っている状況にあります。

結果から分かること

「平行移動の意味を理解している」「三角形の合同条件を理解している」「反例の意味を理解している」など、意味理解を問う問題に対しては、正答率がすべて75%を超えました。また、「簡単な場合について、確率を求めることができる」ことを見る問題では、全国平均を上回る73.7%の正答率があり、基本的な知識や技能については一定の定着が見られました。

また、全国平均の正答率が50%以下であった問題が4問ありましたが、本市は、そのすべての問題で全国平均を上回りました。さらに、無解答率について見てみると、16問中11問で全国平均を下回っています。特に記述式の問題については、全ての問題で無解答率が全国平均を下回るとともに、正答率は全国平均を1.2ポイント上回りました。これらのことから、難しい問題であっても簡単に投げ出すのではなく、問題に対してあきらめずに粘り強く取り組むことができたことが分かります。

ある事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題では、正答率が38.1%でした。日常生活や社会の事象を考察する場面では、与えられた表から必要な情報を選択したり、グラフを事象に即して捉えたりして、数学的な結果を事象に即して解釈することが求められる場合があります。

この問題では、容量が同じ冷蔵庫を購入する際に、本体価格と1年間あたりの電気代から、総費用が等しくなる使用年数を、式またはグラフを用いて求める方法を説明することが求められています。

生徒の解答の様子を見ると、式を用いて考えた生徒が45.8%、グラフを用いて考えた生徒が43.1%と、式を用いる生徒のほうがわずかに多かったのに対し、正答は式を用いた生徒のうち34.9%、グラフを用いた生徒のうち51.5%と、グラフを用いたほうが正答率が高い結果となり、特に式を用いて説明することに課題が見られました。また、式またはグラフのいずれを用いるかは決めることができたものの、その方法の説明が不十分な解答が50.7%ありました。

さらに、この問題を含め、考え方の説明や理由を求められる問題が4問出題されましたが、無解答率に注目してみると、そのすべてで全国よりも低かったものの、すべて10%を超えており、その中には、無解答率が19.5%にのぼるものもありました。

これらのことから、事象を数学的に解決し、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られることが明らかになりました。

日常生活の中で、数学的な考え方をを用いて考える場面はたくさんあります。多様な考え方がある課題に対して、問題解決の方法を考え、それを数学的に説明できるようにすることが大切です。

- 6 健太さんの家では、冷蔵庫の購入を検討しています。健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて調べたことを、次のような表にまとめました。

健太さんが作った表

	冷蔵庫A	冷蔵庫B	冷蔵庫C
容量	400 L	500 L	500 L
本体価格	80000 円	100000 円	150000 円
1 年間あたりの電気代	15000 円	11000 円	6500 円

- (2) 健太さんの家では、7 ページの健太さんが作った表で、容量が500 Lである冷蔵庫Bと冷蔵庫Cのどちらかを購入することになりました。そこで、健太さんとお姉さんは、冷蔵庫を購入して x 年間使用するときの総費用を y 円として、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用を比べてみることにしました。

健太さん「本体価格は冷蔵庫Cの方が高いので、最初のうちは冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が多いね。」
お姉さん「1年間あたりの電気代は冷蔵庫Cの方が安いので、使い続けると冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が少なくなるね。」
健太さん「それなら、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおよその使用年数を考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。
ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式

イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

●中学校英語の調査結果

英語の平均正答率について

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			津市教育委員会	三重県(公立)	全国(公立)	全国との差
全体		21	55	56	56.0	▲ 1.0
学習指導要領の領域	聞くこと	7	64.8	67.1	67.9	▲ 3.1
	話すこと(参考値)					0.0
	読むこと	6	54.9	54.5	55.6	▲ 0.7
	書くこと	8	47.3	47.5	45.8	1.5
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0				0.0
	外国語表現の能力	1	2.0	1.8	1.8	0.2
	外国語理解の能力	6	43.2	43.7	44.7	▲ 1.5
	言語や文化についての知識・理解	14	64.3	65.2	64.7	▲ 0.4
問題形式	選択式	13	69.2	70.7	71.4	▲ 2.2
	短答式	5	48.7	47.6	45.2	3.5
	記述式	3	6.0	6.2	6.8	▲ 0.8

領域ごとの調査結果については、「聞くこと」が64.8%、「読むこと」が54.9%、「書くこと」が47.3%の正答率でした。「話すこと」に関しては参考値のため公表されていません。）

結果から分かること

「書くこと」の領域について、一般動詞の否定文や動詞の活用形等を理解して文を書く問題では、全国の平均正答率が37.4%と低い結果となりましたが、本市は全国を7.8%上回る45.2%の結果となりました。まとまりのある文章を書く問題については全国的に課題がありますが、本市では「書くこと」領域において8問中7問が全国の平均正答率以上となり、英語の基本的な語や文法事項に関する知識について一定の定着がみられました。

「聞くこと」領域において、家庭での会話を聞いてその内容を適切に表している絵を選択する問題では、正答率が55.0%で全国より6.8ポイント下回りました。接続詞や前置詞などを正確に聞き取ることや時間の前後関係を正確に理解する力に課題があります。

(4) <家での会話>

<放送内容>

A: I'm so hungry.

B: Today's dinner is curry and rice. It will take about thirty minutes to cook. Do you have any homework today?

A: No, I don't.

B: Then take a bath before dinner.

A: OK.

お風呂の前? ごはんの前? 正解はご飯の前。

【解答】 3

- 6 英語の授業で、身近なものを調べて発表することになりました。次の英文は、ある生徒が、100円ショップについて調べてまとめたものです。これを読んで、発表の始めに話の流れを示すスライドとして最も適切なものを、右の1から4までの中から1つ選びなさい。

- (1) We have many 100-yen shops (*hyakkin*) in our city. We can buy many kinds of things for 108 yen now. One of the biggest sellers is stationery. Many people buy kitchen items and cleaning items, too. We can also get food, toys, and even clothes.
- (2) There were some shops like *hyakkin* long before the first *hyakkin* shop opened. In the 1930s, Japan had “10-sen shops.” Everything in these shops was 10 sen. They were very popular. Their number went down during World War II. In the 1960s, some supermarkets or department stores had 100-yen corners or 100-yen events. In 1985, the first *hyakkin* opened in Aichi. In the 1990s, a lot of *hyakkin* opened in Japan. Today there are about 8,000 shops.
- (3) There are shops like *hyakkin* in many countries. For example, in the U.S., they have one-dollar shops. I was surprised that some of these shops sell medicine. We cannot buy medicine at *hyakkin* in Japan. The U.K. has one-pound shops. In the U.K., DIY is popular, so there are many items for DIY at one-pound shops. Many other countries also have shops like *hyakkin*.

「読むこと」領域において、まとまりのある文章のあらすじを読み取る問題は、正答率が60.9%で全国より2.0ポイント下回りました。

左の問題は、100円ショップについて調べてまとめた文章を読み、発表の順序を示すスライドとして適切なものを4つの選択支から1つ選ぶものです。

生徒の解答を見ると、1を選択した生徒が14.7%、2を選択した生徒が16.1%おり、各段落の要旨を誤って捉えていることが分かります。文章全体を通して、段落相互の関係を考えながら読む力に課題があります。

1	100-yen Shops (1) The number of shops (2) History (3) Popular items	2	100-yen Shops (1) Popular items (2) <i>Hyakkin</i> in the world (3) The number of shops
3	100-yen Shops (1) The number of shops (2) <i>Hyakkin</i> in the world (3) History	4	100-yen Shops (1) Popular items (2) History (3) <i>Hyakkin</i> in the world

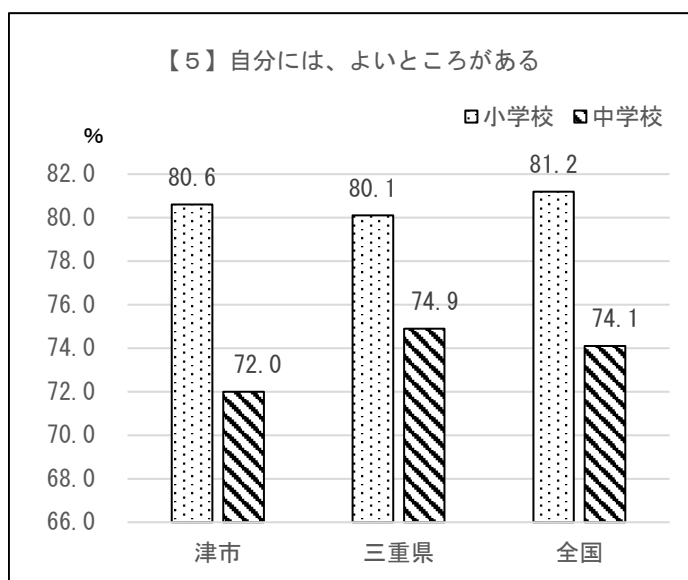
- (1) stationery, kitchen items, cleaning items が、人気のある商品であると捉える。
- (2) in the 1930s～in the 1990s が、時の流れを表す表現であると捉える。
- (3) in many countries が、多くの国で⇒世界中でという意味を表していると捉える。

【解答】 4

「自分ならどう考えるか」という視点をもって英語を聞いたり読んだりして、自分の考えを英語で他者に話したり、正しい文法を使ってまとまりのある文章を書くことや、目的や場面、状況を意識しながら読んだり聞いたりして、日本語や英語でその内容を簡単にまとめたり、言い換えたりできることが大切です。

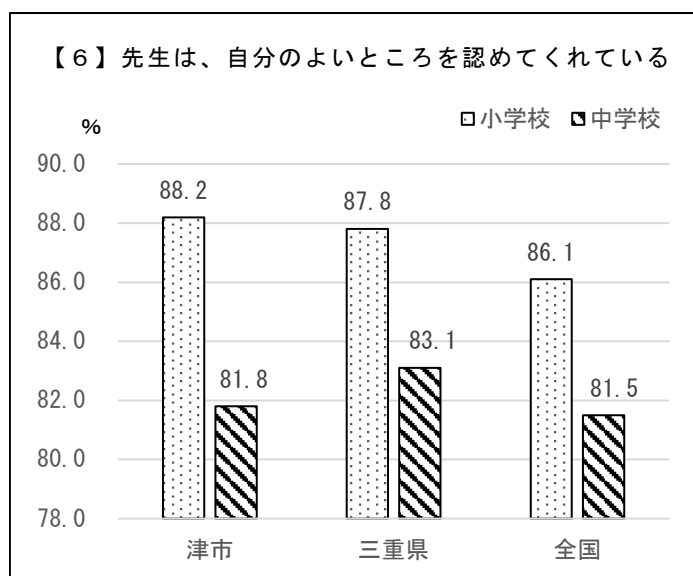
4 児童生徒質問紙調査結果について

自己有用感の醸成について



「自分には、よいところがある」と回答した小学校の児童の割合は80.6%、中学校生徒の割合は72.0%でした。平成30年度の回答と比較すると、小中学校ともに下がっています。

	小学校	中学校
H30	81.9%	77.7%
H31	80.6%	72.0%



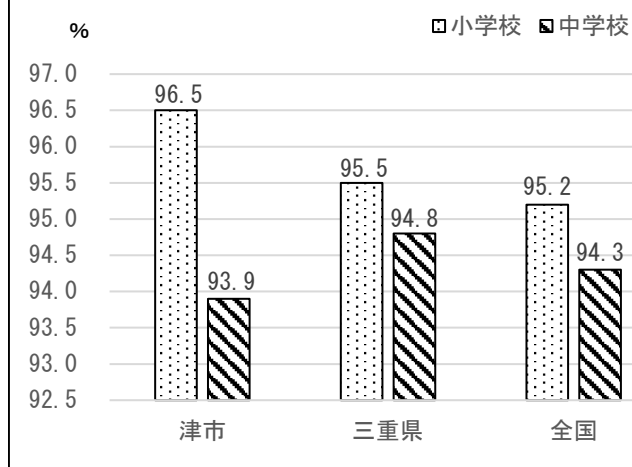
また、「先生は、よいところを認めてくれている」と回答した児童生徒の割合は、平成30年度の回答と比較すると、小中学校ともに上昇しています。

	小学校	中学校
H30	83.2%	81.4%
H31	88.2%	81.8%

この質問に対して学校側の視点から見てみると、学校質問紙に「学校生活の中で一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか」

という質問があり、小学校では「よく行った」59.2%、「どちらかといえば、行った」40.8%、中学校でも「よく行った」61.9%、「どちらかといえば、行った」38.1%と回答しており、教員が子どものよさを認める意識をもっていることが読み取れます。

【16】人の役に立つ人間になりたいと思いますか



さらに、「人の役に立つ人間になりたい」と回答した小学校の児童の割合は96.5%、中学校の生徒でも93.9%となっており、平成30年度の回答と比較すると、小学校は上昇していますが、中学校では下がっています。

	小学校	中学校
H30	95.0%	95.1%
H31	96.5%	93.9%

小中学校ともに、「先生からよいところを認められている」という実感はあるものの自分の良いところを自覚できていない子どもたちがいます。子どもの自己肯定感を育むには、学校における教育活動全体で達成感や満足感を味わい、周りから認められるような活動を盛り込んでいくことが大切です。

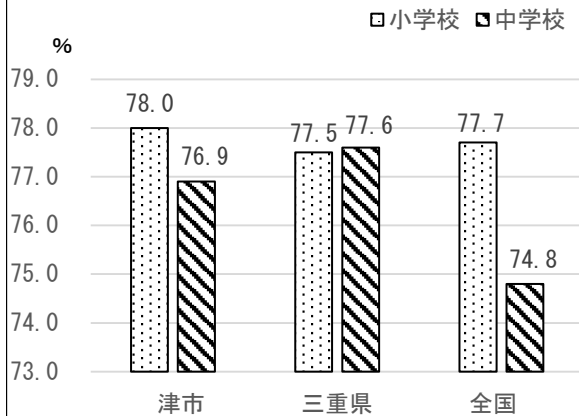
与えられた課題に対し、子ども自身がめあてや目標を立て、課題達成のためのプロセスを作り実行していくことが大切です。その際教員が子どもを適切に評価し、次へのステップにつなげる等、温かい見守りやサポートが必要です。子どもたちが努力した点や工夫した点等を見逃さないよう、子ども本人に返し、子どもが「わかってもらえた。」「次はこれにチャレンジしよう。」といった次への意欲を持つような評価が重要になります。

また、学校だけでなく家庭や地域社会と連携し、子どもの思いに寄り添い、子どもが主役となって活躍できる場をできる限り多く設定し、その中で多くの成功体験が得られるようにすることも大切です。

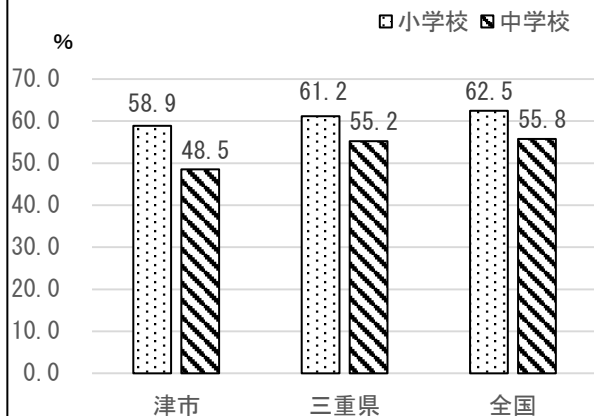
主体的・対話的な学習

新学習指導要領で求められる主体的・対話的な学習に関する質問について、「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した小学校の児童の割合は、78.0%と全国平均より0.3ポイント高くなっています。昨年度までは全国平均よりも低かったことから、主体的に学習に取り組む児童が増えていることが分かります。中学校の生徒の割合は76.9%と全国平均より2.1ポイント高くなっています。

小【35】中【37】 これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から



小【36】中【38】 これまでの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う

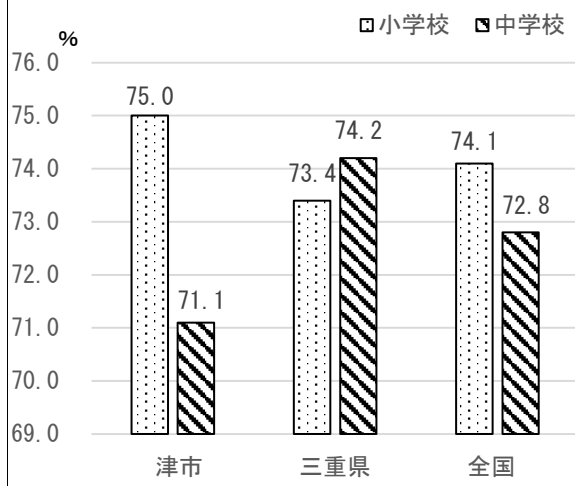


また、「これまでの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」と回答した小学校の児童は、58.9%で、全国平均より 3.6 ポイント低く、中学校の生徒においては、48.5%と全国平均より 7.3 ポイント低くなっています。

これらのことから、小中学校ともに、課題の解決に向けて自分で考え、取り組もうとする児童生徒が増えたものの、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している児童生徒は全国平均より低い状況です。

小中学校ともに授業の中で話し合う活動だけにとどまらず、課題解決のために、資料から情報を集め、自分の考えを整理して発表する機会を積極的に取り入れていくことが大切です。

小【29】中【32】 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

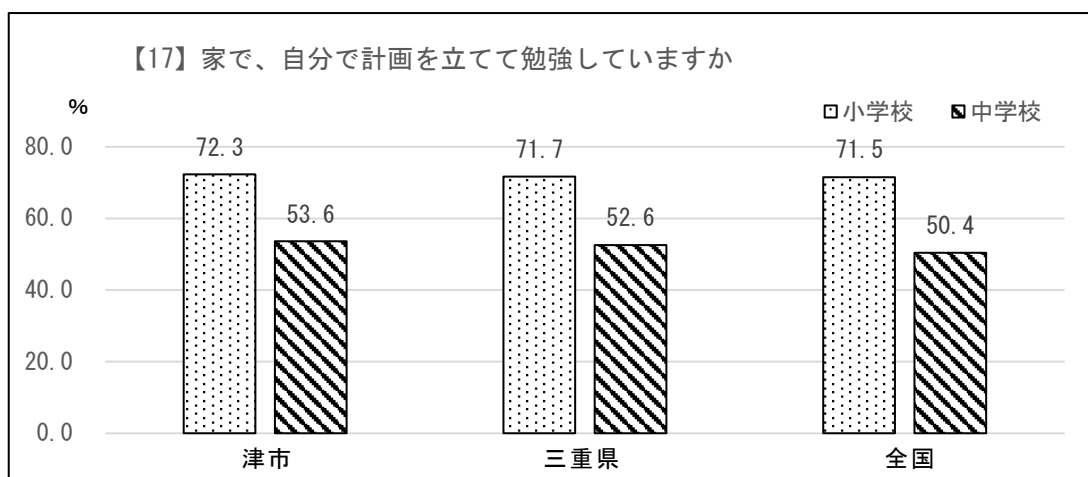


また、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりことができる」と回答した小学校の児童は 75.0%で、全国平均より 0.9 ポイント高くなっていますが、中学校の生徒は 71.1%と全国平均より 1.7 ポイント低い結果でした。

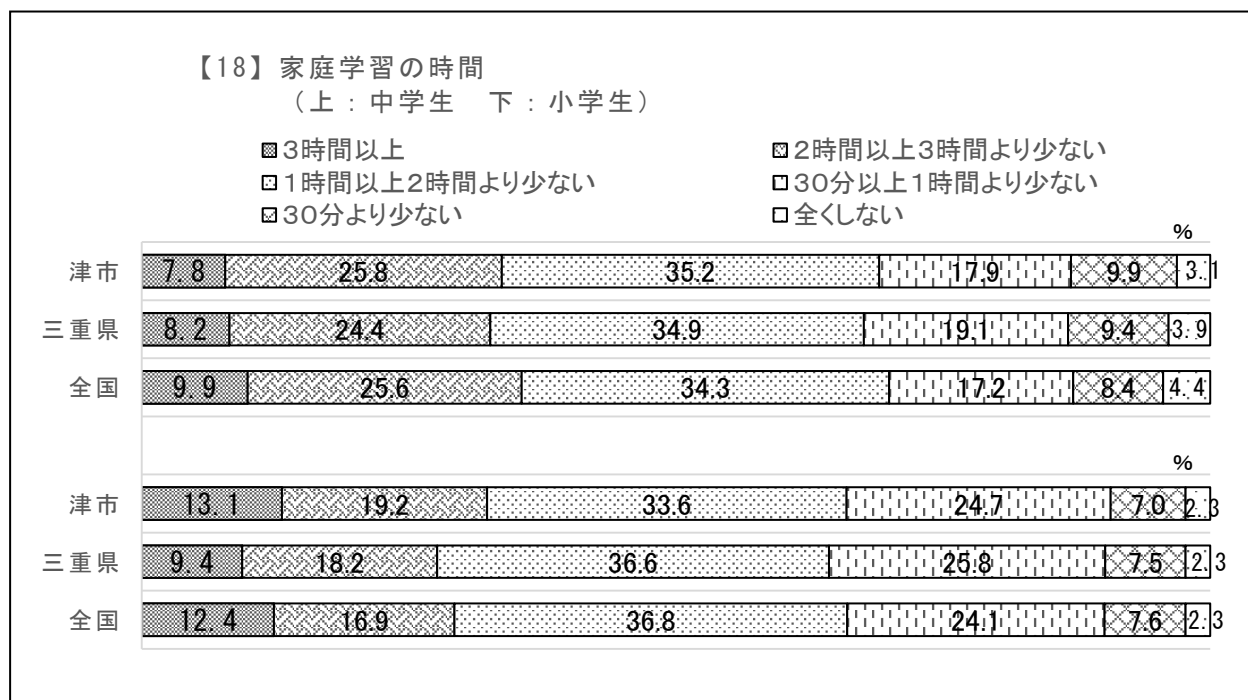
このことから、中学校の授業等においても、ペアやグループ活動等で話し合い、自分の考えを発信して確かめたり、他者の考えを取り入れたりする場面を設定することが大切です。

家庭生活について

「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した小学校の児童の割合は、72.3%、中学校の生徒の割合は 53.6%とどちらも全国平均を上回っており、家庭で学習する大切さを意識していると考えられます。



平日における家庭学習の時間は、津市教育委員会が発行している「津市版家庭学習マニュアル」の家庭学習の目安では、小学校6年生は90分、中学校3年生は2時間15分となっています。今年度調査の結果から、小学生で60分以上勉強している割合は65.9%となり、全国平均より0.2ポイント少なく、中学校では3時間以上の割合が7.8%と、全国平均を2.1ポイント下回っています。



家庭学習の定着のためには家庭の学習環境を整える必要があります。「津市版家庭学習マニュアル」等を活用するなど、学校と家庭が連携した取組を進めることが大切です。また、携帯電話の利用のルールについては、市内の中学生が自ら作成した『津市中学生「ケータイ安全利用宣言」』等を活用してください。

「津市版家庭学習マニュアル」より

●家庭学習の習慣づくり（例）

- 1 家庭学習の習慣は、基本的な生活習慣の改善から！
- 2 毎日、同じ時刻、同じ場所、同じ分量の家庭学習を！
～まず宿題、次に復習と予習、毎日必ずやる学習を決めよう～
- 3 勉強に集中できる環境を！
～勉強に不要なものは片づけて～
- 4 テレビや音楽を消して集中できる環境づくり！

「学ぶ力」は生きていく力！
子どもに魚を一匹与えれば一日もつ。
魚の獲り方を教えれば一生もつ。



津市中学生「ケータイ安全利用宣言」

私たち中学生は、ケータイを利用する場合、次のルールを守ります。

- 1 ケータイの使用は午後10時までとします。
(保護者との連絡は除く)
- 2 食事中や勉強中はケータイを使用しません。
- 3 充電器の置き場所は保護者と相談して決め、ケータイを使用しないときはその場所に置きます。
- 4 フィルタリングをかけます。
- 5 写真や動画も含め、個人情報をSNS等には書き込みません。
- 6 相手の気持ちを考え、直接言えないことは書き込みません。
- 7 LINEやSNS等で知らない人とやりとりはしません。
- 8 何かあったら、必ず親や周りの大人に相談します。

※携帯電話やスマートフォンを
「ケータイ」と表記しています。

平成27年12月24日

津市中学生ケータイ安全利用について考える会

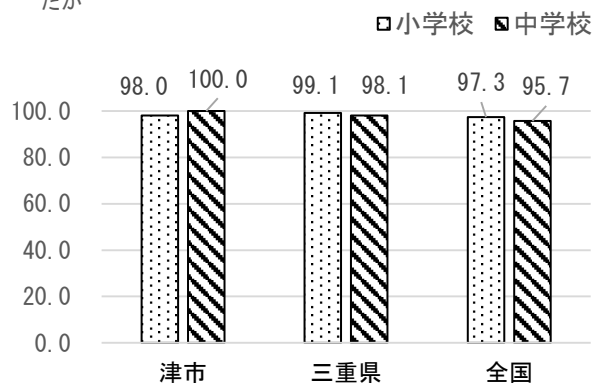
津市の中学生は夏休みから、長い時間をかけケータイ利用の課題等を検討し、正しく使うためにルールを策定しました。中学生はもちろん、地域社会の皆様も是非協力をお願いします。

5 学校質問紙調査結果について

カリキュラム・マネジメントについて

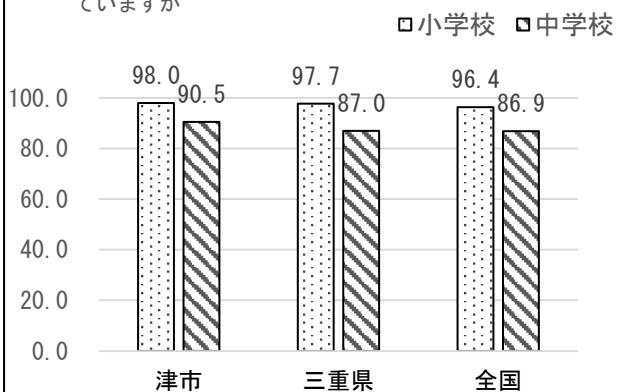
新学習指導要領では、子どもたちの資質・能力の育成を目指すうえで、カリキュラム・マネジメントの充実を図るよう求めています。カリキュラム・マネジメントとは、教育の内容や時間の配分、必要な人や物の確保、実施状況に基づく改善などを通して、教育課程に基づいて、組織的・計画的に学校の質の向上を図ることです。カリキュラム・マネジメントに関わる3つの学校質問紙についてみていきたいと思います。

小（63）中（79）平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

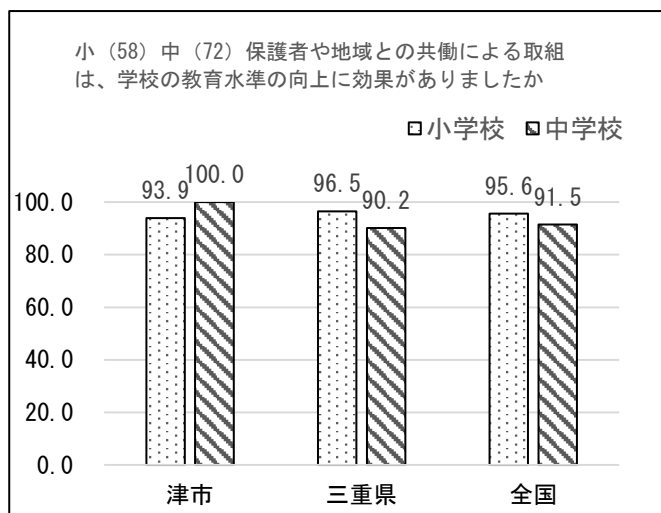


「平成30年度全国学力・学習状況調査の事項の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」という質問に、小学校では98.0%、中学校では100%の学校が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答し、全国平均を上回りました。学力調査の結果を調査対象学年や、調査対象の国語や算数・数学のみならず、学校全体で共有したり、他の教科に生かしたり、教育活動の改善に役立てようとしていることが分かります。

小中（18）指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか



また、「指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている」という質問に対して、小学校98.0%、中学校90.5%が「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答しました。学校は、ゲストティーチャーを招いた授業や、地域の施設等を訪ねて学ぶ現場学習など、学校外の資源を活用した指導計画を作成しています。

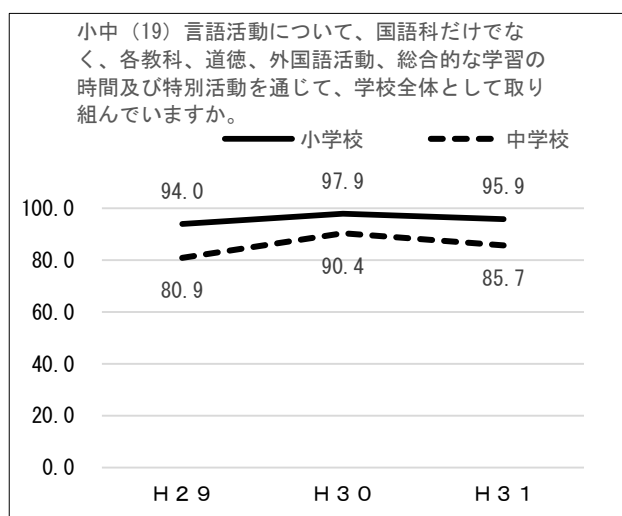


さらに、「保護者や地域の人との協働による取組は、学校教育水準の向上に効果がありましたか」という質問では、小学校が93.9%、中学校は100%が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答し、全国を上回っています。中学校では特に、子どもたちが保護者や地域の方と共に活動することが学校の教育水準の向上につながると実感しているようです。

これからの時代に求められる資質・能力を育むためには、教科横断的な視点で

学習を配列したり、教育課程を実施・評価・改善する一連のサイクルを確立したり、そのために必要な人的・物的資源等を地域の協力を得て活用するカリキュラム・マネジメントを充実させることが大切です。

言語活動について



言語活動の充実については、新学習指導要領においても記述されており（第1章第3の1の（2））、各教科の特有の用語の定着を図ったり、図などの資料や言語活動を充実させる教材を工夫して取り上げたりするとともに、教育活動全体を通して読書活動を推進することにより、表現力がより高められると考えられます。

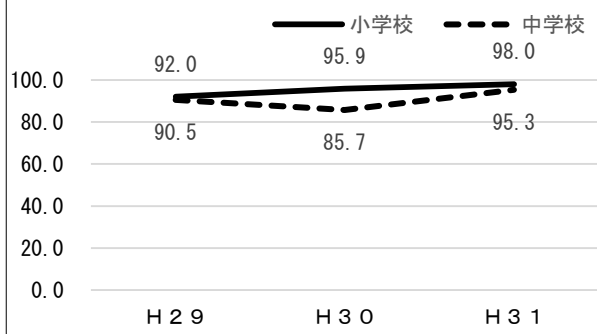
「言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として

取り組んでいますか」という質問に「よくしている」「どちらかといえばしている」と答えた小学校の割合は95.9%、中学校の割合は85.7%でした。小中学校ともに昨年度より減少し、全国平均を下回りました。

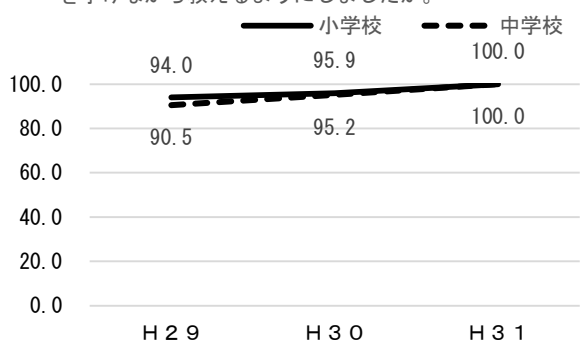
各教科等の特質に応じた言語活動をどのような場面でどのように取り入れていくかを考え、充実を図っていく必要があります。

家庭学習について

小（59）中（73）調査対象の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。



小（60）中（74）調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取り組みとして、学校では、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。



「家庭学習の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか」という質問に対して、小学校では2.1ポイント、中学校では9.6ポイント上昇し、小学校では98.0%、中学校では95.3%が「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答しました。

また、「家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか」という質問に対しては、小学校では4.1ポイント、中学校では4.8ポイント上昇し、ともに100%が「よく行った」または「行った」と回答しました。

これらの結果は、学校が「津市版家庭学習マニュアル」を活用したり、小中一貫教育の取組として、中学校区で学習の手引き等を作成して家庭に配付したりするなど、家庭での「学び」の環境づくりや家庭学習のポイントを示す取組が進められたことによるものと考えられます。

しかし、学校が児童生徒に「家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えている」と高い割合で回答している一方で、児童生徒質問紙の「家庭学習の時間」の質問では「30分より少ない」、「全くしない」と答えた児童生徒の割合が小中学校ともに1割程度みられることから（21ページ【18】家庭学習の時間グラフ参照）、家庭学習の取り組み方について学校と児童生徒の意識の差がうかがえます。

学校は日々の家庭学習の提示の仕方を工夫するとともに、家庭でもゲーム・携帯電話（スマートフォン等）の使用時間を決めるなど、学校と家庭が連携して取り組んでいくことが大切です。

津市版家庭学習マニュアル
保護者用・児童用
津市のホームページから
[家庭学習マニュアル](#)で検索



6 今後の改善方策について

全国学力・学習状況調査の結果を活用し、これまでの教育及び教育施策の成果と課題を客観的に把握することで、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。また、市内すべての学校において、全国学力・学習状況調査の結果から、児童生徒一人一人の学力や学習状況を的確に把握し、教育指導や学習状況の改善等に生かしていきます。

STEP1 子どもたちがどこでつまづいているか、学校全体で共有します

【学校全体で共有する方法の例】

- 例えば、「できなかった問題」を校内研修で取り上げ、子どもたちの誤答の状況から「どの学年のどの内容でつまづいているのか」「つまづかないようにどのような指導をしていけばよいのか」等について話し合う。
- 『授業改善サイクル支援ネット』を活用し、自校と県の設問別の平均正答率や平均無回答率を比較して、自校の子どもたちの「強み」「弱み」や、自分の授業の課題を知り、改善につなげる。

STEP2 子どもたちが「できる」ようになる取組を、学校全体で進めます

【系統的に取り組む方法の例】

- 課題が見られた内容について、各学年での学習のつながりを意識して授業を展開できるよう、『わかる・できる育成カリキュラム』（割合編、図形編）等を活用し、授業改善を組織的・系統的に進める。

【学んだことや考えたことを的確に表現する力の育成に係る取組の例】

- 夏休みに『授業改善サイクル支援ネット』から『みえスタディ・チェック』の国語・算数・理科の問題と回答をダウンロードし、2学期から週に1・2回の頻度で、課題が見られる設問1つを宿題として出し、週明けの授業で取り上げ答え合わせと解説を継続して行う。難易度の高い問題は、学年通信等において保護者への協力をお願いする。

【授業スタイルや学習ルールを学校で統一する取組の例】

- 学習のルールを学校で統一するとともに、「めあての提示」「自力解決」「学び合い」「振り返り」といった授業スタイルを日々の授業の中で意識して取り組む。その際、互いの授業公開で学び合ったり、管理職等による「めあて」の質の向上に向けた授業への指導助言を行ったりする。

STEP3 子どもたちが「どれだけできるようになったか」を確認します

【身に付けるべき力を確実に習得できるようにする取組の例】

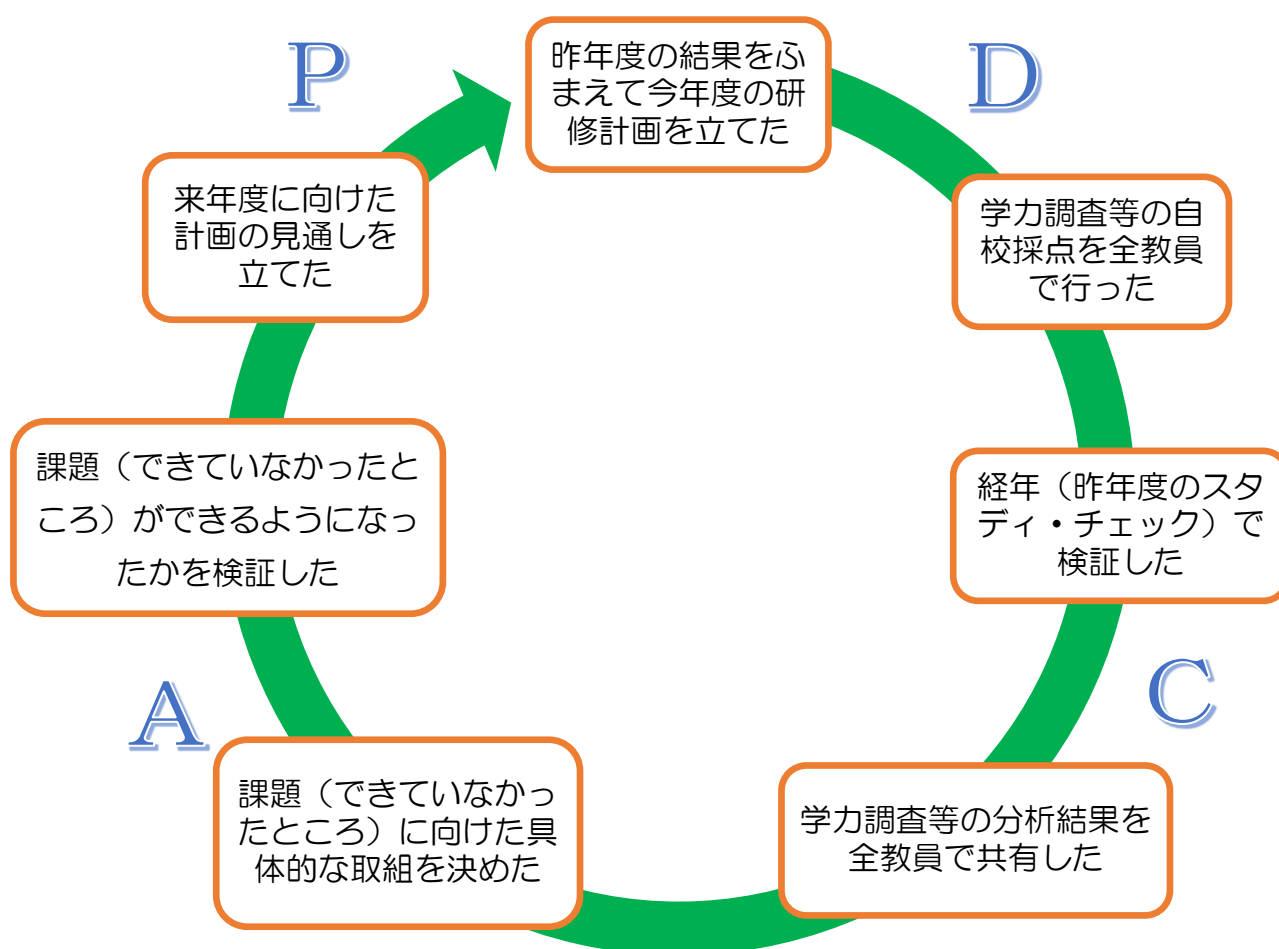
- 各学習において、「どの段階で身につけていないのか」を把握し、同じ内容でつまづかないように重点的な指導や繰り返し学習を行う。各学年の学習内容が習得できているかを確認するためのツールを家庭学習や補充学習等において効果的に活用する。
- ・『わかる・できる育成カリキュラム』（割合編、図形編）のたしかめプリント
- ・『学-Viva!!セット』ワークシート集
- ・『授業改善サイクル支援ネット』のワークシート



理解と定着に向けた PDCA サイクルの確立

PDCA サイクルとは Plan（目標設定）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の4つの段階を繰り返すことにより、継続的に物事を改善するサイクルのことです。

子どもたちの学習の理解と定着に向けて、仮説と実践、検証を繰り返し学力の向上を図ります。



理解と定着を図るサイクルができている学校は以下のような取組を行っています。

- ・ 学力調査の分析で分かった課題を全校体制で日々の授業や宿題等に落とし込んでいる
- ・ 全校体制での具体的な取組が位置付けられている
- ・ 校内研修等に位置付けられ、各教科で系統的な指導がされている
- ・ 学ViVa セットのワークシートを宿題に取り入れ、定着を見届けている

今後の取組

価値観の多様化が進むこれからの社会を児童生徒が生き抜くためには、基本的な知識の定着だけでなく、他者との対話を通じて、思いや考えを積極的に言葉にしながら自分の考えをまとめ、多様な考えを取り入れることによって、一人一人が自分で答えを導き出すような学力が求められています。

津市では、教育振興ビジョンの中で「夢や希望を持ち、国際社会に生きる自立した人づくり」を基本構想とし、3つの柱から、自立した人づくりを目指します。

夢や希望を持ち、国際社会に生きる自立した人づくり

【3つの柱】

- 夢や希望を持ち続け、生き抜いていく力を育む人づくり
- 地域に根差した教育の充実
- 自分らしく心豊かに輝けるまちづくり

この基本構想をもとに、児童生徒が大きく成長していくためには、教育委員会、学校、家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら、連携して取り組んでいくことが必要です。

教育委員会、学校、家庭・地域が、今一度、児童生徒の実態からそれぞれの取組を見直し、授業改善等の具体的な今後の取組につなげていきたいと考えています。

【津市教育委員会の取組】

(1) 連続的、継続的な教育の推進

(津市教育振興ビジョン P.18～P.19 参照)

- ・ 義務教育学校の9年間を見通した取組を、様々な視点から検証し、その課題を見極め、英語教育の取組等の成果を各中学校区で生かせるようにしていきます。また、平成26年度から取り組んできた小中一貫教育の体制の中で、校種を超えた教職員の連携体制を強化し、幼児期から児童生徒一人一人の学習意欲の伸長を図っていきます。

(2) 学習指導要領を踏まえた授業改善に向けた取組

(津市教育振興ビジョン P.20～P.23 参照)

ア) 日常の授業改善の促進

- ・ 指導主事訪問を充実させ、研究授業だけでなく、日常の授業を参観するなど、授業改善に向けた指導・助言を行います。
- ・ 研修会や指導主事の学校訪問等において、「津市版授業改善マニュアル」を活用

し、全国学力・学習状況調査から見えてきた課題や学習指導要領の内容を踏まえた授業改善に関して指導・助言を行い、授業力の向上を図ります。

- ・ 主体的・対話的で深い学びを実現するために、児童生徒が「何ができるようになるか」を明確にしながら、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学習過程を組み立てていくことが重要であるため、内容と方法の両方を重視した授業改善について指導・助言を行います。

イ) 指導体制の整備・充実

- ・ 各学校において、校内研修担当者や指導教諭等、授業改善の中心的な役割を果たすミドルリーダーの育成を図ります。また、新規採用教職員が増えていることから、若手教員の授業力向上を図ります。

(3) 教育環境の整備

(津市教育振興ビジョン P.48～P.49 参照)

ア) 情報活用能力の育成

- ・ コンピュータやインターネット等の情報手段を活用し、目的に応じた情報の収集や整理、分析、発信等の学習活動を充実させます。
- ・ デジタル教科書の活用について、モデル校の取組を公開するとともに、効果的な活用について検証します。

イ) ICTを活用したわかる授業の推進と環境整備

- ・ ICTを活用したわかる授業の実現に向けた研修会を開催し、指導者の育成と指導力の向上を図ります。また、これらの学習に必要な大型テレビやタブレットパソコン、コンピュータ教室の機器等、校内のICT環境整備に取り組みます。

(4) 家庭や地域と連携した取組の推進

(津市教育振興ビジョン P.20～P.23、P.64～P.69 参照)

ア) 学校・家庭・地域が協働した取組の推進

- ・ 学校が「地域でどのような児童生徒を育てるのか」についての目標や方向性を保護者や地域住民と共有し、一体となって児童生徒を育む取組を支援します。

イ) 「家庭学習マニュアル」等の活用

- ・ 子どもたちの充実した学校生活や意欲的な学習態度は、家庭の学習習慣や生活習慣と密接な関係があります。自主的な学習習慣や規則正しい生活習慣や学習習慣が身に付けられるよう「家庭学習マニュアル」等を活用し、宿題等の具体的な内容について提示し、一人一人の児童生徒が家庭学習や生活習慣を見直すことができるよう支援します。

【各学校の取組】

（１）連続的、継続的な教育の推進

- 各学校において、全国学力・学習状況調査結果を分析し、学校の課題や児童生徒一人一人の基礎的・基本的な学習内容の定着状況等を把握し、学校全体で課題改善に向けた具体的で実効性のある取組を行います。また、各学校単位で分析した結果を中学校区で共有し、中学校区の成果と課題を分析し、系統的、連続的な取組を推進します。
- 平成２６年度から築いてきた小中一貫教育の体制を十分生かし、義務教育９年間を見通した系統的・連続的及び効果的な教育活動を推進します。
- 小学校においては、生活科を中心に、幼児期に総合的に育まれた資質・能力等を各教科等の特性に応じた学びにつなげられるよう工夫します。

（２）授業改善に向けた取組

ア) 日常の授業改善の促進

- 学習指導要領解説をもとにした教材研究や、他学年とのつながりを意識した指導を行います。

イ) 児童生徒の主体的な学びを支える「めあて」と「振り返り」の質の向上

- 児童生徒が学習の見通しを持ち、学習意欲を向上させる「めあて」と授業で分かったこと・分からなかったことを自覚する「振り返り」の活動を充実させ、子どもが主体的に学ぶ授業づくりを行います。

ウ) 授業改善サイクル支援ネットの活用

- みえスタディ・チェック等の自校採点結果を入力し、子どものつまずきを把握・分析し、授業改善に生かします。

エ) 「授業改善マニュアル」等の活用

- 「授業改善マニュアル」等を活用し、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に努めます。

オ) ICTの効果的な活用

- 児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつなげるために、協働制作、発表、データ分析、調査活動、遠隔授業、プログラミング等において、ICTの効果的な活用を図ります。

（３）家庭や地域と連携した取組の推進

ア) 学校、家庭・地域が協働した取組の推進

- 学校支援ボランティア等の活動に、地域住民や保護者等、多様な主体の参画を促進し、地域ならではの創意工夫を生かした学校づくりを行うとともに、地域住民等の当事者意識の醸成を促していきます。

イ) 家庭での生活習慣や学習習慣の改善の取組

- 津市中学生「ケータイ安全利用宣言」等の児童生徒の主体的な取組を実効性のあるものにしていくとともに、生活習慣の改善について家庭や地域との連携を図ります。

- 家庭学習については、基本的な知識や技能の確実な定着を図るため、宿題や授業の予習・復習及び読書活動について、「津市版家庭学習マニュアル」等を活用するなど、一人一人の学習環境や発達段階に応じた指導・支援の充実に向けて、学校と家庭が連携し、一体となって取り組みます。

【各家庭の取組】

(1) 基本的な生活習慣の確立

- 基本的な生活習慣は、すべての基本です。児童生徒の健やかな成長と確かな学力の定着のために、基本的な生活習慣を身に付けます。
- コンピュータやインターネット等の情報手段の活用については、学校と家庭が連携し、発達段階に応じた指導が重要です。コンピュータや携帯電話等の安全な利用について家庭で話し合います。

(2) 児童生徒が主体的に取り組む家庭学習

- 家庭学習の習慣を身に付けるためには、家庭の協力が必要です。家庭学習の時間を確保するとともに、児童生徒の頑張りを認め、励ましながらその子にあった学び方を身に付け、学習意欲を高めます。

(3) 家庭や地域でのコミュニケーション

- 日常生活の中での挨拶や対話は、家族との信頼関係を築き、児童生徒の自尊感情や自己有用感を育むことにつながります。子どもの家庭学習の定着を図るために、家庭の環境を整え、家族の温かいふれあいを心がけます。

家庭学習を充実するための手助けとなる「津市版家庭学習マニュアル」をぜひ、ご活用ください。

津市のホームページ [家庭学習マニュアル](#) で検索